



新歓報告

平素よりお世話になっております。93期スナイプクルーの澁川天真朗です。今年度の新歓隊長として活動しましたので、ご報告いたします。昨年11月、90期の江の島インカレの裏で新歓幹部を決定し、12月から準備を進めてきました。今年度は「ともに全国総合3位を目指す仲間を見つける」を方針に、プレイヤー20人、マネージャー3人の入部を目標としました。試乗会開始までは広報活動に注力し、InstagramなどSNSで積極的に発信した結果、フォロワーは1000人を突破しました。ビラ配りも精力的に行い、実際にビラを見て試乗会に来てくれた新入生も多く、努力の成果を実感しました。

試乗会が始まってからは、部車やレスキューボートの故障が相次ぎ、例年通りの運営が難しい場面もありましたが、OBOGの皆さまのご協力により試乗会を継続できました。後半は入部者がなかなか現れず苦しい時期もありましたが、先輩方の助言を受けながら改善を重ねました。結果として、プレイヤー18人、マネージャー2人が入部してくれました。目標にはわずかに届きませんでしたが、多くの新入生を迎えることができ、安心しています。

約5カ月間の活動を通じて、組織を動かす難しさと責任の重さを学びました。2回生の立場でこの経験ができたことは大変貴重であり、91期幹部の偉大さを改めて感じました。今後は夏合宿、そして自分たちの代に向けて、今回の経験を生かし、より良いチームづくりに努めてまいります。これからもご支援のほどよろしくお願いいたします。

MAYREGATTA 470

お世話になっております。4回生470スキッパーの嶋根爽馬です。5月初めに行われたメイレガッタについて報告させていただきます。1ヶ月の新歓期間を経ての久しぶりのレースだったため普段よりも入念に自分がレースで何をしなくてはいいのかわ確認してから臨みました。初日に北風セミトラッピーズからフルパワー前後にて3レースが成立し、自分たちは29, 18, 12とフィニッシュは芳しくなかったのですが、特に3レース目ではスタートからフロントラインをキープし、リフトでしっかりと帆走を伸ばすことができたので1マークを2位で回航する場面も作ることができ手応えを感じることができました。一方でリーチングレグ、ランニングレグで一気に順位を落としてしまうなど課題も顕著に見られたので現在は1stレグの安定化とダウンウィンドで順位を落とす理由の究明にスタート練習、上下トレインといった練習の中で取り組んでいます。残された時間の少なさを痛感していますが、しっかりとやりきれるよう、練習時間を大切にしようという一層気を引き締めてまいりますので今後とも宜しくお願いいたします。



MAYREGATTA snipe

お世話になっております。3回生スナイプスキッパーの奥山蒼空です。5月2、3日に柳が崎ヨットハーバーで行われたメイレガッタについてご報告いたします。私自身としては、総合で半分以上の順位を取ることを目標としました。また、OBの峰岡氏とレースに出させていただくことになったので、より多くの学びを得ることを意識してレースに臨みました。結果としては、あるレースでは人生初の10位以内でのフィニッシュ、それも2位を取ることができました。そのレースのおかげもあり、総合で半分以上の順位を取って目標を達成でき、自身の成長も感じましたが、リコールを2回してしまったり、近くに艇がいる状況下で帆走力が落ちてしまったりと、多くの課題も見つかりました。そのような課題を、今後のレースに活かせるようにしたいと思います。



五月ポイントレース

お世話になっております。3回470スキッパーの南秀樹です。5月17日に行われましたポイントレースについてご報告いたします。当日は風待ちを経て、午後から北風の軽～順風下で3レースが行われました。今回の収穫は、第1、3レースでペアである小村との結成後初めて「これぞ成功」と確信できるスタートを切れたことです。実戦で得たこの感覚は非常に大きな自信と経験になりました。一方で、動作の精度や回航後の帆走、複雑な海面や冷静さが求められる場面での帆走などで、上位陣と比較して克服すべき技術的課題も浮き彫りとなりました。7月に控える個人戦予選まで時間は限られていますが、今回痛感した弱点を一つずつ着実に潰し、更なる順位向上を目指して日々の練習を真剣に取り組んで参ります。今後とも応援よろしくお願いたします。



江ノ島ウィーク 470

お世話になっております。4回生470クルーの樋尻太貴です。今回は5月の22日から24日にかけて行われた江ノ島ウィークの470の報告をさせていただきます。初日は江ノ島のハーバーの方で赤旗、出艇禁止の旗があがっておりはじめは風の吹きすぎによりAP旗があがっていましたが、時間が経ち風は落ちていないのですが運営の気分が変わりレースをすることになりました。強風域の動作や自分のキャパの不足を再確認し今後の練習に活かしたいと思います。二日目はいい風が吹き三レースしたのですが、二レース目にリコールしてしまいビックフリースのライン把握の甘さがでたなと思いました。それに他の大学のこの順位代にいるレベルの高さを実感し今後の練習の意識を変えなきゃなと思いました。総じて、今回のレガッタでは自分の課題他の大学とのレベルの距離を感じたので10月のインカレで総合3位4704位を達成できるよう精進したいと思います。



江ノ島ウィーク snipe

お世話になっております。2回生スナipsスキッパーの中田智也です。今回は江の島ウィークのレース結果についてご報告させていただきます。私は去年のインカレで江の島を訪れたことはあったものの、実際に沖に出るのは今回が初めてであり、非常に楽しみにしておりました。レースの1週間前から現地入りして練習を重ねましたが、連日経験したことのない強風と高い波に翻弄される日々が続きました。大会初日は北風のもとで3レースが行われ、2日目はノーレースとなりました。琵琶湖とは異なる長いマークまでの距離や艇数の多さなど、多くの貴重な経験を積むことができました。しかし、こうした環境の中で自艇としては納得のいく結果を残せず、多くの課題が見つかる悔しい遠征となりました。今回の経験と課題を受け止め、日々の練習で一つずつ解消し、次のレースに向けて努力してまいります。今後とも応援よろしくお願いいたします。



新入生歓迎会

お世話になっております。今年度の新入生教育隊長を務めさせていただきます。2回生Snipeスキッパーの佐々木遼太です。私にとって後輩を迎えるのは中学・高校時代に続き3度目となりますが、当時とは異なり、顧問の先生に頼るのではなく、自分たちの手で主体的に教育を行うという環境には、新鮮さを覚えるとともに、上手く導いていけるかという不安も抱いておりました。しかし、そんな中で迎えた新入生歓迎会は、前代の教育幹部の先輩方や部の幹部、そして同期の支えのおかげで、大きなトラブルもなく無事に終えることができ、深く安堵しております。さて、今年度の新入生教育方針につきましては、「楽しくヨットに乗ってもらいながらも、全体練習に参加するにあたって必要な技術・知識・習慣を身につけてもらう」というものを掲げております。まだホッパー期間は始まったばかりですが、この方針に沿ってヨットの上達をサポートすることはもちろん、新入生が「応援される部活」の一員としてふさわしい成長を遂げられるよう、教育に励んでまいります。今後ともよろしくお願いいたします。



部員リレーインタビュー

思い出のレース

あなたにとって
のヨット部とは

尊敬する先輩

あなたの今の目標は



snipe クルー

金澤奈津

92期の善を一身に背負っている存在、なっちゃん。多くの変わり者がいるヨット部の中で「あ、これが普通だね、」と思わせてくれる貴重な存在。

私の思い出に残っている遠征は、セイルヒロシマです。この遠征は、2回生だけで参加した初めての遠征でした。Airbnbで宿を探したり、他大学から船をチャーターしたりと、手探りながらも自分たちでやり切ったことに大きな達成感を感じました。初めての水域でのレースでは、振れの多い風や波に翻弄されましたが、とても良い経験でした。また、悪天候でレースが行われなかった日は広島観光をしたり、広島風お好み焼きを食べたりして、楽しい思い出もできました。

私にとってヨット部とは、自分を成長させてくれる場所です。どうすれば上達できるのかを自分で考え、行動できる環境があり、それを部員全員が支えてくれる雰囲気があります。また、ヨット部には頼れる先輩、支え合える同期、可愛い後輩がいます。学年の垣根を越えて共に悩み、共に喜べた瞬間に、私は最高の仲間に出会えたのだと実感しました。私も上回生として、部員全員が楽しく前を向けるような雰囲気を作っていきたいと思っています。

私が尊敬する先輩は、主将の神谷康成さんです。約80人の部員をまとめて上げるリーダーシップは本当にすごいと思います。ミーティングでの熱い話には毎回やる気を引き出してもらっています。また、他クラスでありながらも、セーリングに共通する技術や考え方を親身になって教えてくださり、とても助けになっています。誰よりも真剣にヨットに向き合う姿も本当にかっこよく、私もこんな選手になりたいと思います。

私の今の目標は、全日本インカレに出場し、総合3位を獲得ことです。はじめはチームで掲げたこの目標に対してあまり実感が湧かず、どこか漠然としたものでした。しかし、91期の先輩方の本気度に触れる中で、次第に「インカレで良い景色を見られたらどんな気持ちなんだろう」とワクワクするようになりました。目標に対してはまだまだ技術不足ですが、成長を止めず、毎日少しずつ総合3位に近づけるよう努力していきたいと思っています。



470 スキッパー

近藤柊星

92期のシゴデキ代表・近藤柊星。管理艇の状態から470会計の支払い状況まで全てに精通する把握厨。

思い出のレース

あなたにとって
のヨット部とは

尊敬する先輩

あなたの今の目標は

1番記憶に残っているレースは2回生のときの羽咋で行われた個戦予選です。はじめてのしっかりとした遠征、はじめての overseas のレースだったこともあり何もかもが新鮮でした。羽咋は日本の古き良き夏休みの思い出を思わせるような場所で、その中でみんなと青少年の宿に泊まって平日も自主練をしたのは楽しかったです。中でも平日の無風の日にみんなで沖のど真ん中で海水浴したのは記憶に残っています。レースの方は強風の海風であり、波も今までにないくらい立っていて波に叩かれるたびに41が壊れるかと思ったり、波に乗った時には興奮したりと、そんな中で8レース走り切ったことは今でも自信になっています。

生活の一部。平日は大学に行き、土日は部活に行く。もうこの生活に慣れきってしまっただけでヨット部なしの大学生活はあまり考えられない。もちろん他にいろいろなことかもしやっていたり、なんでもできるこの大学生活で自分のお金と時間を払ってまで真剣に何かに打ち込むことには何かしらの意味があると思う。また真剣にヨットに打ち込む仲間やそれをサポートしてくださる神谷コーチ、監督、副監督、OBさんがいるこの環境があることは恵まれたことだと思う。そして自分もこの環境をより良いものにできるよう支えていきたい。

尊敬する先輩は470クルーの樋尻さんです。何かいじられたときには大抵「お前がなっ、」とカウンターする樋尻さんですが、先輩後輩関係なく誰とも話すことができ、mtgのときなどに他の人の意見を尋ねたり、後輩に声をかけたりしてるところがすごいと思います。同志社weekでうまくいかなかったときにバイト帰りの車の中でどうすればいいか相談にのってくれたことには感謝しかありません。去年活躍する同期クルーがいる中でレースメンバーに選ばれなかった悔しさをバネに今年の1番艇クルーとして頑張っている樋尻さんには最後のインカレで絶対に走ってほしいです。

自分とチーム全体の両方のことに向き合うことです。自分のこととしてはまずこのレースシーズンで次に繋げられるような結果を出すこと、あと1年半残っている中で最後に結果を出すために今何がやるべきかをやるべきか真剣に向き合いたいです。チーム全体のこととしてはこの91代が総合3位という目標を達成するために自分ができていることをやることです。そしてジワジワと近づいてくる僕らが主体となる92代において幹部としてすべき準備を進めていくことです。自分の良いところは視野が広いこと、何かを発言することへのハードルが低いことだと思うので残り4ヶ月この91代が総合3位を達成するために努力していきたいです。

新入生リレーインタビュー



平川徹平

初めまして!今年からヨット部に入部しました、工学部電気電子工学科1回生の平川徹平です。大阪府の大阪桐蔭高校出身で、小中とテニスをしていました。これからの4年弱、よろしくお願いします!

なぜヨット部に
入部したのか

ヨット部に入部をした理由としては、まずは大学でしか出来ないことをしたい、という思いがあったからです。ヨット部にはその1つとして、入学が決まった時からかなり興味を持っていました。それに加えて、試乗会での先輩方たちの雰囲気の良い、そしてヨットの面白さを強く感じたことで入部を決意しました。

ヨットに乗って
みて

ヨットに乗ってみて、まず感じたのは、湖面を目下に身体を乗り出して進む、その面白さと若干の恐怖心でした。怖かったのですがその恐怖心が私を煽り、それはいつしか経験したこともないような、そんな楽しさに変わっていました。ここで、ヨットを3年間、全力で極めてみたいと思いました。

尊敬する先輩

私がこのヨット部で好きなのは(もちろんヨットもそうですが、)部の雰囲気です。自由な学風の中で、皆で同じ高い目標を達成するためにお互い切磋琢磨する、そんな「本気」の雰囲気を、少し居ただけですが感じ取れました。私はそんな雰囲気を自ら作り出し、仲間と協力して互いに高めあえるような選手になりたいです。

これまでの部活を
振り返って

大学生となり、自分とはまさに正反対の経歴を持つ人も含め、様々な人に出会いました。授業も目新しいものばかりで、ついて行くのは大変ですがとても面白いです。そんな中で、1度も触れたことのないヨットの世界に入るという、学業面でもスポーツの面でも全くの新しい領域に対して、私は今とても将来に対する楽しみがあります。どちらも、着いていくのは容易ではないと思いますが、それでも自分なりに食らいついて、最後にこの道を選んでよかったと、そう思えるようにこれからの大学生活を送ってみたいです。



竹安風人

理学部一回の竹安風人です。兵庫県の加古川東高校出身で、サッカー部でした。ヨットは完全に未経験です。

思い出のレース 平日の過ごし方

もともとヨット部に入部するつもりは全くありませんでした。ヨットについての知識は全くなく、風の力でゆったり進む優雅なものだと勝手に想像していました。4月上旬にヨット部のビラを見て、人生で一度くらいはヨットに乗ってみたいという気持ちで試乗会に行き、その疾走感に完全に魅了されました。470のトラッピーズはヨットについて無知な僕にとって特に刺激的でした。さらに、ヨット部の雰囲気も良く、「僕が大学で求めていたのはこれだ!」と感じ、入部しました。

実際にヨットに乗ってみるとヨットを操縦することが想像以上に難しいことに気づきました。正確な風の方角を把握すること自体がとても難しく、その上、絶え間なく変化する風に合わせて、操作を様々に変えるのはとても大変だと感じました。しかし、それと同時にヨットが想像の数倍も面白いことに気づきました。試乗会ではあまり分からなかったことが理論的にわかるようになり、ヨットの奥深さを実感し、ヨットにさらに魅了されました。

尊敬する先輩

京都大学は大会で多くの成績を残している伝統ある部活だと伺っています。幼い頃からヨットをしている選手がたくさんいる大学も中にはあると思いますが、ヨットについてしっかり勉強して練習を積み重ねればそのような大学にも勝てると思います。ヨット部での時間を楽しむのはもちろんのこと、強豪大学にも勝利し、しっかりと成績を残したいと思っています。ヨット部の仲間とともに目標に向かって全力で突き進んでいきたいです。

これまでの部活を
振り返って

高校生の頃は大学受験を控えていたので、新しいことを始めたり遊びに行くのが難しかったですが、大学では自分のやりたいことに全力で取り組む事ができ、とても楽しいです。退屈な授業中にもありますが楽しい授業もあります。特に、有機化学や数学は難しいですが、自分が知らないことをたくさん学べるので楽しいです。また、大学でできた新しい友達はそれぞれ個性があり、そのような友達と過ごす時間は本当に楽しいです。

思い出のレスキュー

2回生夏遠征での一コマ。初めての葉山・江ノ島での運転に苦戦する中、先輩たちは当然に乗りこなしており明確な差を感じました。最後の方は波にも慣れ、まるでジェットコースターのような動きでしたが、それを楽しむくらいの余裕が出てきていました。厳しいながらも一緒に目標に向かうことができ、記憶に残っています。



思い出のマネ飯

お世話になっております。2回生マネージャーの鈴木優奈です。私の思い出のマネ飯は、春雨サラダと回鍋肉です。春合宿でマネージャーの人数が少なかった日に、1人で買い出しから調理まで担当しました。すべてを1人で行うのは初めてで、計画通りに進まないことも多かったのですが、全員分を無事に届けられた時は達成感があり、とても良い経験になりました。



進水式

平素よりヨット部への多大なるご支援、ご声援をいただき誠にありがとうございます。470クラスリーダーの熊川琳哉です。

この度、470級の新艇4931号艇（phonrai II）が無事に納艇されましたことをご報告いたします。今回の新艇購入にあたりましては、昨年に引き続き、OBの村上様より多大なるご寄付をいただきました。現役部員一同、心より深く御礼申し上げます。

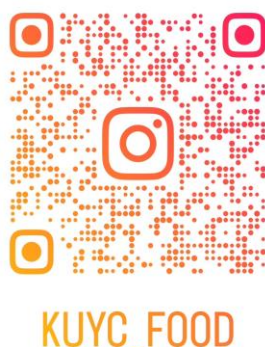
今回の新艇は、昨年導入した4892号艇（phonrai I）と同様、ピアソンマリンジャパン社製となります。先輩にあたる4892号艇は、昨年の全日本個人選手権でトップホーンを獲得するなど、数々の輝かしい走りを見せてくれた我が部のエース艇です。その優れたポテンシャルを受け継ぐ「phonrai II」の合流は、チームの戦力を大きく底上げしてくれるものと確信しています。

来る全日本インカレという大舞台において、この「phonrai I」と「phonrai II」がともに海上で素晴らしい快走を見せ、最高の形で恩返しができるよう、日々の練習により一層邁進してまいります。今後ともヨット部への熱い応援の程よろしくお願いいたします。



他にも公式のInstagramのアカウントとは別に、今まで作ってきた紹介きれないほどのたくさんのおいしいマネ飯を発信しているインスタのアカウントがあるので、是非そちらもご覧ください！

右のQRコードを読んでいただくか、
https://instagram.com/kuyc_food?igshid=MzRIODBiNWFIZA==
こちらのリンクから飛んでいただくと閲覧可能です。



京都大学体育会ヨット部
滋賀県大津市鏡が浜番外地
京大ヨット部艇庫
[[hp] <https://www.kuyc-home.com/>

[mail] kuyc.contact@gmail.com

https://twitter.com/kuyc_

<https://www.facebook.com/kyoto-sailing/?fref=ts>

https://www.instagram.com/kuyc_food/?hl=ja